

### スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook 第6戦 スーパー耐久レース in 岡山

2021年11月13日(土)~11月14日(日)  
岡山国際サーキット(岡山県)  
入場者数: 11月13日 3,000人  
11月14日 7,500人



劇的なバトルを0.223秒差で制す!  
シーズン4勝目を飾り 2021年を締めくくる

## FREE PRACTICE

波瀾万丈の2021年シーズンを送ってきたKTMSにとって、いよいよ今季最終戦がやってきた。破竹の開幕2連勝、新車投入、トップ快走、そして涙に暮れた富士、喜びの3勝目、無念のストップによるチャンピオンの可能性消滅……。これほどドラマチックなシーズンを送ってきたチームは、スーパー耐久で他にいないかもしれない。ただ、最後は勝って終わりたい。チームは気持ちをひとつに、今季最終戦の地となる岡山国際サーキットに乗り込んだ。

初冬の寒さが堪える11月11日(木)の特別スポーツ走行から岡山を走り出したKTMS GR YARISは、今回3時間レースということもあり、野中誠太、平良響、翁長実希の3人でド

ライブする。もちろん前戦までドライブした一條拳吾も、チームに帯同しサポートした。

走行開始の11月11日(木)は、晴天のもとKTMS GR YARISは1時間2本の特別スポーツ走行を終え、11月12日(金)の3本の専有走行に臨んだ。KTMS GR YARISは前戦接触でこぼれた油脂をきれいに清掃して持ち込んだものの、時折かすかに残ったものが白煙となって出る状況。ただ走行には支障がなく、走行を重ねるにつれてそれも無くなっていった。

専有走行は1回目は平良が、2回目は野中がひとりでステアリングを握り周回を重ねていく。順調ではあるが、今回はライバル勢も速い。特に今回は同じGR YARISの台数が増え、大



きなライバルとなることも予想された。

そんななか、走行前に降った雨がやや残った3回目では野中、平良と交代しながら走行するも、セッション途中でデフのオイル漏れが発生。この日はここで走行を終えた。

#### 11月12日 スーパー耐久専有走行 Gr.1 1回目結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	6	新菱オート☆NEOGLOBE ☆DXL ☆EVO10	1'41.616
2	225	KTMS GR YARIS	1'42.079
3	743	Honda R&D Challenge FK8	1'42.605
4	7	新菱オート☆VARIS ☆DXL ☆EVO10	1'42.954
5	59	DAVID MOTUL ED WRX STI	1'43.176

#### 11月12日 スーパー耐久専有走行 Gr.1 2回目結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	13	ENDLESS GR YARIS	1'40.703
2	59	DAVID MOTUL ED WRX STI	1'41.735
3	6	新菱オート☆NEOGLOBE ☆DXL ☆EVO10	1'42.288
4	225	KTMS GR YARIS	1'42.813
5	743	Honda R&D Challenge FK8	1'43.692

#### 11月12日 スーパー耐久専有走行 Gr.1 3回目結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	13	ENDLESS GR YARIS	1'41.387
2	225	KTMS GR YARIS	1'41.617
3	59	DAVID MOTUL ED WRX STI	1'41.911
4	6	新菱オート☆NEOGLOBE ☆DXL ☆EVO10	1'42.259
5	7	新菱オート☆VARIS ☆DXL ☆EVO10	1'42.577

### QUALIFY

迎えた11月13日(土)の予選日は晴天。午前10時25分からスタートしたグループ1のフリー走行では、KTMS GR YARISは平良、野中、翁長と交代し、翁長が1分42秒030を記録。クラス2番手で終え、午後2時15分からの公式予選に挑んだ。まずはAドライバー予選で野中が1分40秒397をマークし、続くBドライバー予選では、平良が1分39秒800をマークする。ただ野中は3番手、平良

は2番手とライバルが速さをみせるなか、合算ではクラス2番手という結果となった。

続くCドライバー予選では、翁長が6周を走り1分41秒565を記録し、クラス2番手で公式予選を終えた。もちろんクラスポールポジションを奪えなかったのは悔しいところではあるが、レースではドライバー3人のポテンシャルがKTMSの強みとなる。チームはレースに向けて綿密に調整を行い、決勝日に備えた。



11月13日 スーパー耐久 公式予選 Gr-1 AB 総合正式結果

Pos.	No.	Car Name	Total Time
1	6	新菱オート☆NEOGLOBE ☆DXL ☆EVO10	3'19.535
2	225	KTMS GR YARIS	3'20.197
3	13	ENDLESS GR YARIS	3'20.632
4	7	新菱オート☆VARIS ☆DXL ☆EVO10	3'21.191
5	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	3'23.597

11月13日 スーパー耐久 公式予選 Gr-1 C ドライバー結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	6	新菱オート☆NEOGLOBE ☆DXL ☆EVO10	1'40.490
2	225	KTMS GR YARIS	1'41.565
3	7	新菱オート☆VARIS ☆DXL ☆EVO10	1'42.132
4	743	Honda R&D Challenge FK8	1'43.026
5	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	1'43.079

### RACE



迎えた11月14日(日)の決勝日は、午前中にグループ2の決勝レースが行われ、KTMS GR YARISが出走するグループ1の決勝は、多くのファンで賑わうなか、午後1時30分にフォーメーションラップがスタートした。

KTMS GR YARISのスタートドライバーを務めたのは平良。クラス3番手からスタートで一気に2番手へ浮上。トップを走る#6ランサーにプレッシャーをかけていく。ただST-2クラスは序盤の上位陣は僅差で、後方にもライバルたちがひしめく。集団のなかで、平良はアグレッシブにトップを狙っていった。

ただ、#6ランサーもストレートが速く、コーナリングも要所を締めてくることから、なかなか平良をもってしてもオーバーテイクには至らない。そうこうするうちに、後方からは#7ランサーも接近。2台のランサーに挟まれるなか平良は何度か並びかけ、ようやく“赤い壁”を攻略したのは19周目。タイトなダブルヘアピ

ンひとつめでインにKTMS GR YARISをねじ込むと、ついにトップに浮上してみせた。

平良はリードを築き、44周を走りピットイン。翁長実希に交代する。ただ、ここでわずかに作業に時間がかかってしまい、序盤から上位で戦っていた#13 GR YARISの先行を許してしまった。直後、レースは他クラスのアクシデントによりフルコースイエローが導入されるが、リスタート後の翁長のペースは悪くない。安定したスティントを刻み、#13 GR YARISとの差を少しずつ縮めていくことに成功した。「あと少しで追いつけそうだったのですが」という翁長は、27周を走りピットに向かう。すると、前を走っていた#13 GR YARISも同時にピットイン。クルーたちは、その前のピット作業でのタイムロスを取り戻そうと抜群の作業をみせ、交代した野中誠太を送り出した。

クルーの抜群の作業により、ふたたびトップへ再び咲いたKTMS GR YARISだったが、後方からは#13 GR YARISがふたたび接近してくる。87周が近づく頃になると、#13 GR YARISは野中の背後にピタリと接近してきた。さらに、序盤トップを争った#6ランサーも近づいてくる。

大きなプレッシャーがかかりはじめた野中だったが、「今回は僅差になると思っていました」と冷静にバトルを展開しはじめた。同じGR YARISで、パフォーマンスはほぼ互角。抜

きどころさえきっちりと抑えれば、野中の実力をもってすればそう簡単にオーバーテイクされることはない。それでも、#13 GR YARISは何度もKTMS GR YARISに並びかけてくる。

ピットでも緊張の面持ちで画面に何度も大写しになる2台のバトルを注視していたが、夕陽が山に隠れはじめた午後4時33分、ついにレースはファイナルラップを迎えた。サインガードで待ち受ける平良と翁長の眼前に、KTMS GR YARISがやってくる。野中はその差0.223秒でKTMS GR YARISをトップチェッカーに導いてみせた。あまりの劇的バトルに、ドライバーふたりとチームクルーは抱き合って喜び合った。

これで今季は6戦中4勝。もちろん喜ぶべき成績だが、チャンピオンには届かなかった。しかし、まずは最終戦を喜びで終えたことで、KTMSの全員が喜びと安堵の気持ちが入り交じった表情を浮かべた。



### DRIVER'S VOICE



#### 野中 誠太 SEITA NONAKA

予選から ST-2 クラスは接戦だったので、どのチームが勝ってもおかしくない状況でした。ロングランには自信がりましたが、気が抜けない戦いになるとは思っていたものの、これほどまでとは思いませんでした (笑)。バトル相手の小河諒選手は大先輩ですが、フェアなバトルをできたと思います。最後は気持ちで前に出たという感じですね。今季は4勝を飾りましたが、ランキングは3位でした。原因はもちろん分かっていますし、GR YARIS もまだ開発途上です。それでも皆さんにお世話になりましたし、チームの皆さんの努力がこういうかたちに結びついたと思っています。



#### 平良 響 HIBIKI TAIRA

毎戦そうだったように、予選ではライバルに前に出られる展開でしたが、決勝ではタイヤを温存し、後半で抜く展開となりました。焦らず攻め過ぎず、冷静に前のライバルのタイヤの状況を見ながら、うまく抜くことができました。その後はリードも築けたので、良い仕事ができたとと思います。ピットで時間がかかったこともありましたが、2回目のピットで早かったのはチームに感謝です。そして優勝することができたのは、誠太が最後に頑張ってくれたことですね (笑)。今季4勝でしたが、やはり富士 24 時間が大事だと痛感した1年でした。来シーズンは富士で勝ちたいですね。



#### 翁長 実希 MIKI ONAGA

事前の予想では私のスティントでは良いポジションで戻れると思っていたのですが、今回ピット作業の人員配置の変更を行ったこともあり、タイムロスがありました。その間にトップを奪われ追いつけるレースとなりましたが、FCY が二度入ってペースをつかむのに苦戦しました。でも後半は追いつけられたと思います。最終的に優勝を飾ることもでき、すごくうれしく思います。今季はいろいろなアクシデントもあり、落としてしまったレースもありましたが、完走すれば勝てることを証明できましたし、そういう強いクルマを用意してくれたチームの皆さんに感謝しています。



#### 11月14日 スーパー耐久 グループ1 決勝レース結果

Pos.	No.	Car Name	Laps	Total Time	Gap
1	225	KTMS GR YARIS	101	3h01'42.853	
2	13	ENDLESS GR YARIS	101	3h01'43.076	0.223
3	6	新菱オート☆ NEOGLOBE ☆ DXL ☆ EVO10	101	3h02'21.129	38.276
2	7	新菱オート☆ VARIS ☆ DXL ☆ EVO10	99	3h01'06.343	2Laps
5	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	99	3h01'57.701	2Laps